

特集

知里真志保^{ちりましほ}生誕100年

アイヌの言葉^{ことば}と霊^{たま}

に導かれて

アイヌ語研究にささげた生涯

『銀のしずく降れ降れまわりに』

これは、知里真志保之碑に刻まれているカムイユーカラ、『ふくろう神が自分を演じた歌』の一節です。今年、登別の地で生まれ、差別と闘いながらアイヌ語研究に一生をささげた知里真志保の生誕100年にあたります。

今月号では、真志保の故郷・登別での生誕から、生涯アイヌ語を研究し続けた軌跡などをご紹介します。



▲知里真志保之碑。1973（昭和48）年、有志によりハシナウシの丘（登別本町）に建てられました。現在は、登別小学校前に移設されています。

生誕・登別の地へ

知里真志保は、1909（明治42）年2月24日に現在の登別本町に知里高吉とナミの次男として誕生します。姉は『アイヌ神謡集』を残した幸恵です。また、伯母にはユーカラ伝承者である金成マツがいます。



▲母・ナミ（右）と伯母・金成マツ（左）。マツはユーカラ伝承者として、多くのユーカラを幸恵と同じようにローマ字で筆録していきました。



▲姉・幸恵。アイヌで初めてカムイユーカラ（神謡）を記述しました。残念ながら刊行を待たずに、19歳でこの世を去りました。